

LIFE 暮らし

がん 体重変化に注意

体力低下の防止必要

がんになると体重が減る現象はよく知られている。そのままだと体力が落ちて治療がうまくいかなくなるため、適切な体重管理が必要だ。京都府立医大と静岡県立静岡がんセンターのチームは、適切な食事と運動を組み合わせて体重減少を効果的に防ぐためのプログラムを開発した。高齢のがん患者でも自宅でも無理なく続けることができるのが特徴。京都府立医大の高山浩一教授は「将来的にはがん患者に限らず、広く高齢者の体力と健康の維持に役立てることができよう」と話す。

京都府立医大・静岡がんセンター

生存率にも影響

特に注意が必要なのが「がん悪液質」だ。脂肪に加えて筋肉の量が減り続ける。増殖するがん細胞は、ただでさえ体に蓄えられたエネルギーを消費する。それに加えてがん細胞の周囲で起きる炎症反応によって、タンパク質や脂肪

の分解が加速されることが最近になって分かってきた。「がん患者は体のエネルギー効率が悪くなる状態だ」と高山さん。初診時に患者の半数、終末期には8割が悪液質になっているとされる。痩せて自力で歩けず身の回りのこともできなくなると、厳しい治療には耐えられない。高山さんが肺がん患者約400人を調べると、体重が多く減った人ほど治療成績が悪く、生存率が低いことが分かった。

一方で抗がん剤は吐き気や

がん患者の下肢筋力トレーニングの例



内藤立暁・静岡県立静岡がんセンター医長

適切な食事と運動 プログラム開発



京都府立医大の高山浩一教授 (同大提供)

味覚異常などの副作用も起こす。高山さんは「食欲がない時はあまり栄養のバランスを気にせず、味付けを工夫して好きな物を何でも食べてほしい。カロリーが高いものがおすすめ」と話す。

下肢筋力の維持

患者がリスクをあまり気に掛けない側面もありそう。食欲不振や体重減少を心配する度合いは、患者本人より家族の方が高かったとのアンケート結果がある。

高山さんはがん患者の食欲を増進させる薬「アナモレリン」を小野薬品工業と開発した。ただ、薬だけでは筋肉の減少を防ぐことができないことも分かってきた。

そこで静岡がんセンター呼吸器内科の内藤立暁医長らと共同で進めているのが「NEXTAC(ネクスタック)臨床試験」。食事と運動の相乗効果が最初に低下しがちな下肢筋力の維持を狙う。

2016年に患者30人を対象に実施した第1段階試験では、体重や身体機能が維持され、運動量も増えることを確認。130人が参加して進行

中の第2段階試験では、食事や運動のアドバイスを受けた人と受けなかった人で効果を比較している。今年中に結果がまとまる見通しだ。

一般高齢者にも

欧米では、ジムなどで運動器具を使って行う患者向けトレーニングもある。ただ「日本のお年寄りのがん患者にはハード過ぎる」と高山さん。「自宅で無理なく続けられるように負荷を減らす工夫をした」と説明する。下肢筋力トレーニングの例はこうだ。いすに座った状態から立ち上がる。座った状態で片脚を伸ばしたり片膝を上げたりする。いすにつかまって片脚を横に上げる。健康な人なら簡単にできる。これを毎日続けることで筋力の低下を防ぐ。

「食事は管理栄養士が、運動は理学療法士が患者ごとにアドバイスする。2カ月のプログラムが終わった後もどうやって続けてもらうかが課題」と高山さん。ウエアラブル端末を使って遠隔モニタリングし、やる気を維持することも検討している。高齢者のフレイル(虚弱)防止にも役立つ可能性がある。「加齢で筋力が低下するサルコペニアとがん悪液質のメカニズムは少し違うが、トレーニングそのものは誰にでも有効。将来は一般の高齢者を対象にした試験も考えている」と高山さんは話す。

消費者保護策 思わぬ反発

大規模な消費者被害を起した「販売預託商法」を禁止し、インターネット通販で特に問題視されている不正な定期購入契約に厳罰を導入する。「期待の消費者保護策」と期待される特定商取引法と預託法の改正案が、思わぬ反発を受け

「やっつけられない」「拙速だ」。専門家や消費生活センターの相談員らで構成する1月14日の内閣府消費者委員会。消費者庁が「両法で規制される全ての業態について、契約書はこれまで紙での交付が義務付けられていたが、メールなど電子交付も可能にする」と説明すると、大半の委員が反対意見や疑問を表明した。

法改正に向けてまとめた昨年8月の報告書では、契約書の電子化は言及されていなかった。政府の規制改革推進会議の作業部会では昨年11月、消費者庁が語学教室やエステなどで電子化を進めると述べた。それでも、訪問販売やマルチ商法なども含めて適用するとは言っていない。全国消費生活相談員協会の担当者は、紙の契約書の利点を強調する。「高齢者

電子契約容認 識者ら懸念

が消費者被害に遭った際、紙なら家族やヘルパーが発見しやすい。最近もこんな例があった。関西地方に住む女性が1月中旬、独り暮らしで認知症の母親宅を訪れた際、高額なハウスクリーニングの契約書を発見。消費生活センターに連絡し、相談員の指導を受けて無事に解約できた。

反対意見に対し消費者庁の笹路健取引対策課長は「政府があらゆる手続きのオンライン化を進める中、紙にこだわる理由はない。新型コロナウイルス対策としても電子契約の必要性は高い。改定など、悪用されない制度にする」と話した。消費者問題に詳しい池本誠司弁護士は「同庁の姿勢を疑問視する。消費者庁は、トラブルが多い商法や訪問販売での電子契約の必要性やリスクを十分に説明できていない。文字の大きさなど、書面の警告機能が低下しないような取り決めについて、法改正前にまず有識者検討会に諮るべきだ」

オンライン化が進んでいない相談窓口の現場からは「いきなり電子化されると、対応に支障が出る」との声も上がる。協会によると、大半の消費生活センターは契約書を確認する際、メールではなくファクスや郵送で受け付けているという。

韓国風大根の納豆あえ

2人分で大根1/2本、納豆1パック、青ジソ3枚を用意します。大根は5mm角に切り、塩少々を振りまぜ、10分ほど置いて水気を切ります。

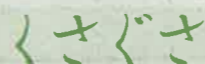
献立のヒント

青ジソは粗みじん切りにします。ボウルに納豆、大根、青ジソ、しょうゆ小さじ1、コチュジャン、ごま油各小さじ1/2を加えまぜ、器に盛ります。

(1人分76kcal、塩分0.9g)

雪あそび

比嘉由紀子



2021.2.3 沖縄タイムス

一昨年は雪が少なく、過ごしやすかったと、姪が言っていた。昨年の暮れから、2年分とばかりに、里は大雪だ。実家は

雪まみれで鬼ごっこだ。寒いなんて当たり前だった。庭に積まれた雪にかまくらを作ってままごっこだ。男女のふたごの私

「性の知識で自分を守って」

「性の話を、もっと気軽にオープンに」を合言葉に、性教育ユーチューバーとして活動する助産師の大貫詩織さ

いる。著書を出すのが夢で、昨年10月にクラウドファンディングで出版費用を募



著書「CHOICE」を出版した助産師

健康生活

適切な食事と運動を

がんになると体重が減る現象はよく知られている。そのままだと体力が落ちて治療がうまくいかなくなるため、適切な体重管理が必要だ。京都府立医大と静岡県立静岡がんセンターのチームは、適切な食事と運動を組み合わせることで体重減少を効果的に防ぐためのプログラムを開発した。高齢のがん患者でも自宅でも無理なく続けることができるのが特徴。京都府立医大の高山浩一教授は「将来的にはがん患者に限らず、広く高齢者の体力と健康の維持に役立てることができそうだ」と話す。

がんの体重減少防ぐ

▽悪液質

特に注意が必要なのが「がん悪液質」だ。脂肪に加えて筋肉の量が減り続ける。増殖するがん細胞は、ただでさえ体に蓄えられたエネルギーを消費する。それに加えてがん細胞の周囲で起きる炎症反応によって、タンパク質や脂肪の分解が加速されることが最近になって分かってきた。

「がん患者は体のエネルギー効率が二重に悪くなっている状態だ」と高山さん。初診時に患者の半数、終末期には8割が悪液質になっているとされる。痩せて自力で歩けず身の回りのことまでできなくなると、厳しい治療には耐えられない。高山さんが肺がん患者約400人を調べると、体重が多少減った人ほど治療成績が悪く、生存率が低いことが分かった。

一方で抗がん剤は吐き気や味覚異常などの副作用も起す。高山さんは「食欲がない時はあまり栄養のバランスを気にせず、味付けを工夫して好きな物を何でも食べてほしい。カロリーが高いものがおすすめ」と話す。

▽相乗効果

患者がリスクをあまり気に掛けていない側面もあり



京都府立医大の高山浩一教授(同大提供)

京都府立医大など健康維持にも応用プログラム開発

そつだ。食欲不振や体重減少を心配する度合いは、患者本人より家族の方が高かったとのアンケート結果がある。高山さんはがん患者の食欲を増進させる薬「アナモレリン」を小野薬品工業と開発した。ただ、薬だけでは筋肉の減少を防ぐことができないことも分かってきた。

そこで静岡がんセンター呼吸器内科の内藤立暁医師らと共同で進めているのが「NEXTAC(ネクスタック)臨床試験」。食事と運動の相乗効果が最初に低下しがちな下肢筋力の維持を狙う。

2016年に患者30人を対象に実施した第1段階試験では、体重や身体機能が維持され、運動量も増えることを確認。130人が参加して進行中の第2段階試験では、食事や運動のアドバイスを受けた人と受けなかった人で効果を比較している。今年中に結果がまとまる見通しだ。

▽無理なく継続

欧米では、ジムなどで運動器具を使って行う患者向けトレーニングもある。ただ「日本のお年寄りのがん患者にはハード過ぎる」と高山さん。「自宅で無理なく続けられるように負荷を減らす工夫をした」と説明する。

下肢筋力トレーニングの例はこうだ。いすに座った状態から立ち上がる。座った状態から立ち上がる。座った状態から立ち上がる。

「ティータイム」ストレス解消

1月で77歳になった。ラッキーセブンの年だ。何かいいことありそうな年だと勝手に思っていたが、このコロナ禍ではいいことなんて望めない。出掛けられないもどかしさを感じているのは誰しも同じだろう。

そんな中、私は今、漬物に没頭している。昨年の暮れ、20日ほど干したダイコンをぬか漬けのたくあんにした。誕生日に開けてみた。予想通り、いたくあんができた。

パリパリとした歯触り、うどい塩加減に出ました。知人や友人に配ろう、笑顔とともに高もらった。

30歳の時、婚家にゆづりめたくあんを贈った。その塩辛さに驚かされた。持ちこたえられたと、私は職場の用務員さん。あんの漬け方を教わった。通りにやってみたら、いたくあんができた。

新型コロナ対策と接触者追跡 世界保健機関報告書の要旨

接触者追跡は世界的流行への対応に不可欠な、対策の中心的要素である

- 接触者を全て追跡できなくても感染抑制に有効
- 権威のあるガイドラインの策定を

「接触者追跡」の重要性を再確認

新型コロナウィルス感染症の拡大防止に関して世界保健機関(WHO)は、感染者と接触した人たちの行動を追跡する「接触者追跡」の重要性を再確認する報告書を公表した。昨年6月、世界を結んで開催したオンライン会議の審議内容と提言をまとめた。

接触者追跡は、日本でも

医学者の本音トーク

京都大准教授・渡辺範雄

18

今回は臨床研究の実際についてお話しします。

医学の世界はまだまだ不確実で分からないことだらけです。日々の診療でも同じで、検査結果や症状、経過から病名は付いても、原因や治療の効果、患者さんのその後については、何となくしか分からないのです。臨床研究はこうした不確実な問題について、患者さんの状態を詳しく観察したり、治療方法による違いを比べたりすることにより、解決に役立つ知識を少しでも増やそうとするものです。研究を始めるに当たって

実際の臨床研究

新たな知見で問題解決



て、まずは今分かっていること、現在進行中の研究に関する情報などを、論文を採ったり、研究が登録されているデータベースを検索したりして、漏れなく集めます。

集めたものを基に、今までの研究に何か問題点はないか、何が分かっていないかを検討します。この過程で以前お話しした「系統的レビュー」をし、結果を論文として世に出していくと、より世の中のためになります。

テーマがある程度定まったら、研究計画書を書きつつ必要な資金の調達先やチームを考えます。

研究資金は厚生労働省や日本学術振興会などの公的な

ものど、企業が社会貢献で提供する民間のものに大別され、公的資金の方が長期的で大きな額が望めます。最近ではクラウドファンディングで一般の方から集めることもできるようです。

これらの研究資金は公募が原則で、他の研究者との競争です。自分の研究がいかに世の中で求められているかを説明し、かつ研究を完遂できることをアピールする必要があります。研究方法が年々洗練される中、新しくスマートな手法を取り入れるため、日々の勉強は欠かせません。

計画と資金、チームがそろっても、そこからかなり大変です。私が最初に取り組んだ臨床研究は、不眠に対する精神療法の効果を調べる「無作為割り付け対

照試験(RCT)」で、約40人の方に2カ月間参加してもらいました。計画を立ててから成果を国際的な医学雑誌に発表するまで4年かかり、10人以上の共同研究者に協力してもらいました。

その間、共同研究者のいる医療機関に足を運んで定期的にミーティングをしたり、研究が一段落すればさやかな打ち上げをしたりと、チームのモチベーションを維持することにも努めました。

さまざま苦勞はありましたが、新しい知見を発表することができ、少しは参加してくれた患者さんや世の中のためになっていたのではないかと自負しています。

(次回は11日掲載)

(イラスト 横田吉昭)

がん患者の 体重減防げ

ラムを開発した。高齢のがん患者でも自宅で無理なく続けることができるのが特徴。京都府立医大の高山浩一教授は「将来的にはがん患者に限らず、広く高齢者の体力と健康の維持に役立てることができそう」と話す。

▽悪液質
特に注意が必要なのが「がん悪液質」だ。脂肪に加えて筋肉の量が減り続ける。増殖するがん細胞は、ただでさえ体に蓄えられたエネルギーを消費する。それに加えてがん細胞の周囲で起きる炎症反応によって、タンパク質や脂肪の分解が加速されることが最近になって分かってきた。

京都府立医大、静岡のチーム

「がん患者は体のエネルギー効率が二重に悪くなっている状態だ」と高山さん。初診時に患者の半数、終末期には8割が悪液質になっているとされる。痩せて自力で歩けず身の回りのこともできなくなると、厳しい治療には耐えられない。高山さんが肺がん患者約400人を調べると、体重が多く減った人ほど治療成績が悪く、生存率が低い

食事と運動で無理なく

ことが分かった。一方で抗がん剤は吐き気や味覚異常などの副作用も起す。高山さんは「食欲がない時はあまり栄養のバランスを気にせず、味付けを工夫して好きな物を何でも食べてほしい。カロリーが高いものがおすすめ」と話す。

▽相乗効果
患者がリスクをあまり気に掛けていない側面もありそう。食欲不振や体重減少を心配する度合いは、患者本人より家族の方が高かったとのアンケート結果がある。

高山さんはがん患者の食欲を増進させる薬「アナモレリン」を小野薬品工業と開発した。ただ、薬だけでは筋肉の減少を防ぐことができないことも分かってきた。

そこで静岡がんセンター呼吸器内科の内藤立暁医師らと共同で進めているのが「NEXTAC(ネクスタック)臨床試験」。食事と運動の相乗効果で最初に低下しがちな下肢筋力の維持を狙う。

2016年に患者30人を対象に実施した第1段階試験では、体重や身体機能が維持され、運動量も増えることを確認。130人が参加して進行中の第2段階試験では、食事や運動のアドバイスを受けた人と受けなかった人で効果を比較している。高山さんは話す。

がんになると体重が減る現象はよく知られている。そのままだと体力が落ちて治療がうまくいかなくなるため、適切な体重管理が必要だ。京都府立医大と静岡県立静岡がんセンターのチームは、適切な食事と運動を組み合わせることで体重減少を効果的に防ぐためのプログラムを開発した。

がん患者の下肢筋力トレーニングの例



「食事は管理栄養士が、運動は理学療法士が患者ごとにアドバイスする。2カ月のプログラムが終わった後もどうやって続けてもらうかが課題」と高山さん。ウェアラブル端末を使って遠隔モニターし、やる気を維持することも検討している。

茶の間 わが家のカレンダー

ひだか ともこ
白高 朋子

わが家、りカレンダー、った娘が5さいズブラストを一言「おめんの日。何たいよ人間、いないか、まっつて、ていこう、のちヨイ、がいつばい、もう一つ、ります。キなとこ、ところ(お、か言わない、あげた物を、とつて、30個のお、何回見ても、めくつて、すが、す、はいの娘、ます。

新型コロナウイルス感染症の流行が急拡大する中、日本糖尿病学会と日本糖尿病協会は、緊急事態宣言発令の動きに伴って「糖尿病患者の皆様へ。新型コロナウイルス感染症の流行拡大に際して」と題する声明をインターネットで公表した。

コロナ感染後重症化防止へ

血糖コントロール維持を

日本糖尿病学会の声明
血糖コントロールが大切。一定の間隔で医療機関を受診。発熱などの症状が出た場合、かかりつけ医療機関で相談。人混みを避けての運動や、家の中で体を動かすことが大事

で明らかになっている。感染した場合、重症化しないためには、できるだけ早期に正確な診断をつけ、適切な治療を受けることが大切とした上で、発熱や息苦しきなどの症状が出たら、保健所やPCR実施機

糖尿病学会など 定期的な医療受診啓発

関ではなく、まさかかかりつけの医療機関に連絡し、どのようにすればよいか相談するようアドバイス。その一方、現在のコロナ流行下においても、人混みを避けながら運動することや家の中で体を動かすことの大切さも指摘している。最近の研究では、コロナ禍で通院回数が大きく減った2型糖尿病患者の場合、通院回数が変わらないか、少し減少した患者と比べ、血糖コントロールの悪化が見られることが分かっている。

便移植でがん治療向上?

イスラエルのチーム発表
がん治療の経過が良好な人の便を移植することで、薬が効かない患者の治療成績を上げることができるかもしれないとする研究結果を、イスラエルのチームが発表した。人の腸内には何兆もの細菌がいて免疫機能などに関わっている。チームは、がんの免疫チェックポイント阻害薬が効く人と効かない人で腸内細菌のパターンが異なるのに着目。便と一緒に細菌を移植して薬の効果を高められないかどうか調べた。薬が効いた2人の便5人に移植して比較。1人から移植された3人で薬が効くようになり、重い副作用もなかった。もう1人の便では効果がなかった理由は不明だが、チームは「治療法の安全性と可能性が示された」としている。

米国入院患者 10万人減少か

新型コロナウイルスに感染した人が他の人に感染を拡げる期間を、治療薬やワクチンによって少しでも短縮できれば、かなりの数の入院患者を減らすのに役立つとする研究結果を、米ニューヨーク市立大のチームがまとめた。

感染者は無症状の場合でも数日から十数日、平均すると10日ほどの期間、唾液などでウイルスを排出し、他の人に感染を拡げると考えられている。米国の人口に基づいてチームが推計すると、この期間を0.5日短くしただけで約140万人の新たな感染者が出るのを防ぎ、約10万人の入院患者を減らすことができることが示された。

コロナ感染期間、半日短縮なら

新型コロナウイルスを巡って

はさまざまな治療薬が開発されているが、明確な効果が認められたものは少ない。米国や欧州などで投与が始まったワクチンは臨床研究で高い効果を示したものの、無症状を含めた感染を實際にどの程度防ぐことができるかは未知数だ。

それでもチームの研究者は「薬の治療効果やワクチンの予防効果が低くても、感染期間を少しでも短縮できるなら流行拡大を抑えるのに役立つ」と指摘。入院患者を減らすことによって、集中治療室(ICU)のベッドや人工呼吸器といった医療資源の不足

を回避するのに役立つであろう。チームは、米国で人から人の感染が広がる様子を計算モデルで再現。感染期間が1日短いと入院患者が約35万人、3.5日短いと約71万人減少するとの結果が出た。

米ニューヨークの病院の集中治療室(ICU)で新型コロナウイルス患者を手当する看護師=2020年4月(ゲッティ=共同)



米チーム試算 経済的コスト21兆円節約

さらに病院での治療費など算。たった0.5日の短縮が約2千億(約21兆円)を節約につながると分析している。

治療に耐えられず生存率にも影響

がんの体重減少 食事と運動で防げ

がんになると体重が減る現象はよく知られている。そのままだと体力が落ちて治療がうまくいけなくなるため、適切な体重管理が必要だ。京都府立医大と静岡県立静岡がんセンターのチームは、適切な食事と運動を組み合わせて体重減少を効果的に防ぐためのプログラムを開発した。高齢のがん患者でも自宅で無理なく続けることができるのが特徴。京都府立医大の高山浩一教授は「将来的にはがん患者に限らず、広く高齢者の体力と健康の維持に役立つことができれば」と話す。

特に注意が必要なのが「がん悪液質」だ。脂肪に加えて筋肉の量が減り続ける。増殖するがん細胞は、ただでさえ体に蓄えられたエネルギーを消費する。それに加えがん細胞の周囲で起きる炎症反応によって、タンパク質や脂肪の分解が加速されることが最近になって分かってきた。

高カロリー

「がん患者は体のエネルギー効率率が二重に悪くなっている状態だ」と高山さん。初診時に患者の半数、終末期には8割が悪液質になっているとされる。痩せて自力で歩けず身の回りのこともできなくなる。厳しい治療には耐えられない。高山さんが肺がん患者約400人を調べると、体重が多く減った人ほど治療成績が悪く、生

食欲増進薬

患者がリスクをあまり気に掛けない側面もありそうだ。食欲不振や体重減少を心配する度合いは、患者本人より家族の方が高かったとのアンケート結果がある。高山さんはがん患者の食欲を増進させる薬「アナモリン」を小野薬品工業が開発した。ただ、薬

下肢筋力維持、フレイルに応用も

がん患者の下肢筋力トレーニングの例



ただでは筋肉の減少を防ぐことができないことも分かってきた。

そこで静岡がんセンター呼吸器内科の内藤立暁医師らと共同で進めているのが「NEXTAC(ネクスタック)臨床試験」。食事と運動の相乗効果で最初に低下しがちな下肢筋力の維持を狙う。

2016年に患者30人を対象に実施した第1段階試験では、体重や身体機能が維持され、運動量も増えることを確認。130人が参加して進行中の第2段階試験では、食事や運動のアドバイスを受けた人と受けなかった人で効果を比較している。今年中に結果がまとまる見通しだ。

無理なく継続

欧米では、ジムなどで運動器具を使って行う患者向けトレーニングもある。ただ「日本のお年寄りのがん患者にはハード過ぎる」と高山さん。「自宅で無理なく続けられるように負担を減らす工夫を

した」と説明する。

下肢筋力トレーニングの例はこうだ。いすに座った状態から立ち上がる。座った状態で片脚を伸ばしたり、片膝を上げたりする。いすにつかまって片脚を横に上げる。健康な人なら簡単にできる。これを毎日続けることで筋力の低下を防ぐ。

「食事は管理栄養士が、運動は理学療法士が患者ごとにアドバイスを。2カ月のプログラムが終わった後もどうやって続けてもらうかが課題」と高山さん。ウェアラブル端末を使って遠隔モニタリングし、やる気を維持することも検討している。

高齢者のフレイル(虚弱)防止にも役立つ可能性がある。「加齢で筋力が低下するサルコペニアとがん悪液質のメカニズムは少し違うが、トレーニングそのものは誰にでも有効。将来は一般の高齢者を対象にした試験も考えている」と高山さんは話す。

からだ



京都府立医大の高山浩一教授(同大提供)

◆緑が多い地域の住民は喫煙率が低い
緑の多い地域に住んでいる人は喫煙率が低く、禁煙に成功する人の割合も高い、と英国などの研究グループが発表した。英国で実施された健康に関する調査に参加した成人8059人のデータ

を使って、居住地域の緑地の広さと現在の喫煙習慣、過去の喫煙歴、喫煙歴がある人の禁煙率との関連を調べた。
居住地域の緑地面積の広さで対象を4グループに分けて解析したところ、最下位グループに比べて最上位グループでは、喫煙している人の割合が20%低かった。また、

緑地の広さと過去の喫煙者の多さとの間には関連がなかったが、喫煙歴がある人の禁煙成功率は最下位のグループに比べて上位2グループで10~12%高かった。
研究グループは「緑の多い地域に住む人に非喫煙者が多いのは、禁煙した人の割合が高いためと言えそう」としている。

情報 【皮膚・排せつケア認定看護師による ストーマ相談室】
12日13~16時、姫路市三左衛門堀西の町、ミヤノ健康ショップモイヤン姫路店(市役所前バス停から徒歩3分)。
16日13~16時、神戸市中央区楠町5、日本オストミー協会兵庫県支部相談室(宮野医療器本社2階、地下鉄大倉山駅から徒歩約3分)。
18日13~16時、尼崎市水堂町3、ミヤノ健康ショップモイヤン阪神店(阪急武庫之荘駅から徒歩15分)。いずれも受け付け順で看護師が個別相談に応じる。
◇ 対象は人工肛門や人工ぼうこうの保有者(オストメイト)と家族ら。参加無料で予約不要。新型コロナウイルスの感染状態により電話対応となる可能性がある。同支部☎078・371・1830(ファクス兼用)または高橋宣光支部長☎090・4295・4957
神戸新聞報道部医療・科学チーム
FAX 078.360.0629 iryou@kobe-np.co.jp